

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第146号	氏名	孟 翔峰
学位審査委員	主査	林 善彦	
	副査	久恒 邦博	
	副査	村田 比呂司	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、セラミックスの厚さを変化させて光照射し、デュアルキュア型レジン接着剤の硬さと曲げ強さの機械的性質を測定し、その硬化挙動に及ぼす影響を検討したもので、臨床的にも有意義である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 100%エタノールに浸漬する前後のレジン接着剤のヌープ硬さを測定し、重合率と架橋率にそれぞれ換算した。3点曲げ強さと曲げ弾性係数も測定した。それらの結果の相関の統計分析を行っており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、デュアルキュア型レジン接着剤においては、セラミックスの厚さが厚くなるに従い、重合率と架橋率、曲げ弾性係数は低くなる傾向を示した。さらに、重合率と架橋率には高い相関関係が認められ、曲げ弾性係数には重合率と架橋率両方との相関関係が認められた。これらはデュアルキュア型レジン接着剤の臨床応用と開発に関して有益な情報をもたらした。</p> <p>以上のように、本論文はセラミックスを装着する際に使用するデュアルキュア型レジン接着剤の硬化挙動を把握し、臨床での正確な操作方法に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			